DC EX
銀河戦国群雄伝ライ
22
真鍋譲治
DE-5-22
発行
メディアワークス

ISBN4-8402-1382-8

C0979 ¥930E

9784840213820

1920979009301

発行●メディアワークス

定価: 本体930円 ※消費税が別に加算されます

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト①②
迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY

央華封神①②
栗橋伸祐 原案友野 詳

銀河戦国群雄伝ライ①～㉒
真鍋譲治

魔狼王烈風伝①～⑧
沢田 翔

Nocturne～夜想曲～①～③
栗橋伸祐

ガンドライバー①～⑥
ビトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①②
うたたねひろゆき

レジェンド・オブ・クリスタニア はじまりの冒険者たち①～③
姫川 明with HIURI PRO
水野 良原案
テレビアニメ版

神秘の世界エルハザード①～⑤

魔獣水滸伝KIZNA①②
ビトウ ゴウ原作
夏野すいか作画

太陽の少女インカちゃん①②
小野敏洋

ドラゴンナイト4 全3巻
富樫

がんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

流星雀士キララ☆スター
高雄右京

月極はっぴぃあぱーとめんと
思い当たる

電撃ガオガイガー
竹田裕一郎、大森 葵ほか

仙木の果実
八房龍之助

『お嬢様特急』SDキャラコミック
お嬢様電車
森田屋すひろ

GUNばれ!ゲーム天国①
そうま竜也

髪切虫
ふくやまけいこ

宵闇眩燈草紙①
八房龍之助

勇者王ガオガイガーFINAL the COMIC
矢立 肇原作
北嶋博明／竹田裕一郎構成
大森 葵作画

悠久黙示録エイドロンシャドー①
うるし原智志作画
よしもときんじ原案

銀河戦国群雄伝
ア

RAI

BY JOJI MANABE

22

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
KATSUO ANDO

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
TOSHIKI MORISHITA
HIRONORI NAGAI

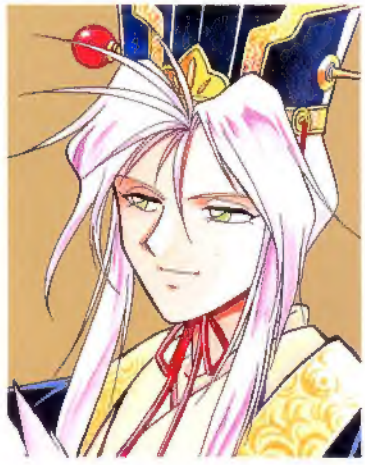
戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢、五丈軍先鋒として南天に雪崩れ込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝、座士都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、骸羅のクーデター時には、南京楼の太守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を軍師として迎え、また、皇室の娘、紫紋を妻に娶ると、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、死闘を展開、ついに金洲海にて恩師、狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、偽帝、骸羅をも打ち倒し、全五丈を平らげる。その後、玄偉、西羌土ら反竜我派の反乱を鎮圧する中、五丈王に即位し、尊号を竜王と称する。西羌と和を結び、着々と国内体制を固める雷に対し、智の正宗とそれに呼応するかの如く北伐を決意した、南天王、羅候率いる南天軍が、ほぼ同時に大挙して五丈領土に侵入、国力が整わない五丈は最大の危機を迎える。雷は軍師、師真の戦力集中による各個撃破の策を取り、まずは開彭沖にて正宗軍と激突、最後には単艦同士での一騎打ちにより、ついに宿敵正宗を倒した。雷は返す刀で、南天軍主力を六紋海におびき寄せ、天文を利用した戦法で壊滅的な打撃を与える。歴史の分岐点となったこの戦いで雷の覇者への道が確定した。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商、大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れて甚だ評判が悪い。だがその知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。並みいる諸侯からの度重なる招きをすべて固持し、時を待つが紫紋に横恋慕したことによる縁で雷に出会い、以来その才覚を余すことなく発揮、雷の覇業の最大の立役者である。六紋海の戦いでは雄大な戦略を立て、敵軍師、姜子昌との決戦に挑み、これを撃ち破る。



【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の女性故に、辛い運命に弄ばれる悲劇の女である。父親を雷に殺された後、五丈に身柄を引き渡され、恩賞として仇でもある雷の許に預けられた。だが、雷とはそれを乗り越え、

深い愛情を寄せ合うことになる。正妻となってからは、戦場に赴く雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

雷の主君であった比紀弾正の娘。勝ち気な性格で、雷との絡みで紫紋とはよく対立し、反乱の罪を被せて紫紋を殺そうとしたこともあった。弾正の死後、国政を乗っ取るが骸羅に国を追われ、雷の許に転がり込み、第二婦人として、雷の第一子である焚天丸をもうける。一時険悪であった紫紋とも和解し、子育てに励んでいる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の兵卒時代からの戦友。かつては高僧にも仕える身分であったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷とは戦場を共にし、また、雷の密命を帯び、暴政下の武士都より麗羅を救出、無事雷の許に送り届けた。六紋海の決戦においては一軍を率いて奮戦し、雷を守る。

【孟閣】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として、経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その覇業に重きをなす。六紋海の戦いでは、息子の孟起と共に雷の身を案じ、奮戦する。

【三楽斎】さんらくさい

五丈の尚書令。師真に次ぐ、実質、五丈家臣団ナンバー2である。極めて有能な能吏派軍人であり、弁舌の才を持って雷を補佐し、外交、内政面においてその優れた才能を、遺憾無く発揮する。

【鐘士元】しょうしげん

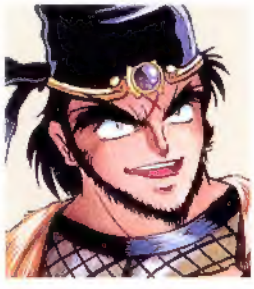
五丈軍の勇将。雷の師団長以来の宿将で、その勇猛果敢さで、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、対立した。だが次第にその知謀を認め、その指揮下に入り活躍する。

【姚文】ようぶん

五丈軍の勇将。鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には良く服し、戦功を重ね、雷の覇業の一翼をなす。よく書

をし、武勇一辺倒ではない男でもある。

【項武】こうぶ



雷の旗揚げ時からの宿将であった項焉の息子で、八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。その武勇を買われ常に先鋒を任される。六紋海では、星海に散った項焉の仇を討つべく奮戦する。

【林則嘉】りんそくか

五丈軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされなかったが、南京楼城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなすようになる。天才肌の師真に対して、地味ながら、その誠実さをもって数々の献策をし、雷の覇業を助ける。特に金州海の戦いに於いて、焦る雷を勇気を持って諫めたことは、その後の雷の成長を考えると特筆に値する。

【如海】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ、幕下に入る。

【孟起】もうき

孟閣の息子で五丈軍の第二世代を代表する青年武将。六紋海の戦いでは、遊軍を率いて八面六臂の活躍をする。

【装伯】そうはく

造船総監装民の甥。五丈軍の技術者の要の一人であり、装民の作った巨砲を自走砲艦として生まれ変わらせた。

【呂朱】りょしゅ

五丈軍の中堅武将。雷の挙兵に応じ、骸羅派の大守を殺して雷の許に馳せ参じた功により、奮威将軍に進んだ。

【鐘才】しょうさい

郡役所の下級官吏から鎮南将軍にまで登り詰めた苦労人。六紋海の戦いでは、後方遮断の任を任される。

【公叔】こうしゅく

如晦と並び東河の七賢人と呼ばれた賢士。雷に召され、軍政司等を歴任。外交手腕を買われて西羌との微妙な関係の維持を一任される。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の弟で豪商大覚屋を擁しての南京楼産業界の若きリーダーである。その立場から雷の良き経済アドバイザーとして活躍、骸羅簒政後の五丈経済再建に大きく貢献するが、長引く戦乱に民が疲弊しきっていることを悟り、早期講和の道を模索し始める。

【羅候】らこう

南天王。父、羅鶴の死後、兵権を引き継ぐ。当初は南天の大国、智に従属していたが徐々にその勢力を広げ南蛮国王女、邑峻を娶りその地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗を失脚させる。南蛮王の死去後、その王位も継ぎ、練、南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。その後、正宗が復権すると見るや、素早く智領土の併合を謀り、正宗と智王を遙か、領土外に追いやる。次いで、天下統一の最後の障害である五丈に、空前の大軍団で侵攻するが、六紋海で完敗する。

【姜子昌】きょうしそう

練国きっての名将。羅候の竹馬の友である。若くして、練軍の大都督に就き、羅候を補佐し、練国の発展に尽力する。正宗による銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが、誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。この度の北伐では、総大将に就任、師真と対決する。

【蹄虎】ていほう

南天軍の若き武将で知勇に秀て姜子昌の片腕として活躍する。また、雷の許にお忍びで潜入した羅候のお目付役と、苦労も耐えない。

【龍緒】りゅうしょ

夏候獣と共に、琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。実質的には練の宰相職にあり、法令、兵法、いずれにも造詣が深く、北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあっては、慎重派である。

優れた容姿と立て板に水の弁舌のすべて、外向的謀略にも暗躍、この度も西羌軍を動かすことに成功する。

【邑峻】ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の許に輿入れ、

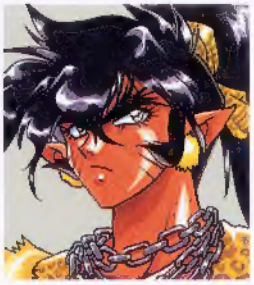
百人もの女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、意外にも花嫁修行には熱心だった。とにかく羅候が好きで好きでたまらないという感じで、それ故に城内を餃子だらけにしてしまうなどいろんな騒動も起こす。羅候の本格的な北伐にも同行し、身重の身体でありながら、大鉈を振り回しての大奮闘した。

【金角・銀角】きんかく・ぎんかく

南天軍の兄弟武将。姜子昌の配下で六紋海の戦いで辛うじて生き残る。その後智への侵攻に失敗。その彼らの許に五丈の使者が…。

【神楽】かぐら

南天国の女武将。白象戦車隊を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。姜子昌にほのかな恋心を抱くが、六紋海の戦いで、善戦空しく、一度は破った項武に捕らえられ、そのまま彼の妻になる。それでも姜子昌への未練が絶ち難く、彼への想いを遂げようと、餃子づくりに精を出す。



【飛竜】ひりゅう

正宗の側近。姜子昌と共に兵学を学んだ仲ではあるが、互いに違う主君に仕えることによって、敵味方に分かれてしまう。正宗から絶大な信頼を受け、その死後、文字通り粉骨砕身、智国復興に励むが、五丈の進駐を阻めず。

【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張導師の高弟で、その秘められた力で玄偉の暗躍を助ける。偽帝討伐時には師真と功を争うが、寸でのところで破れる。その後も刺客の梨扇を使い、雷暗殺を謀るが失敗。玄偉の滅亡と共に雷に降り、幕閣に迎えられる。

【李張】りちょう

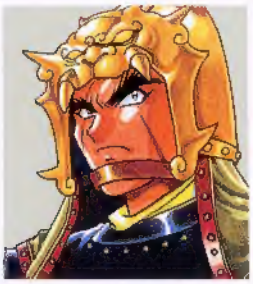
弾止の元軍師。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。銀河の覇者の出現を予見している。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張に学ぶ。道師としてその能力は未知数だが、紫紋の良き友でもある。玉の輿を狙ったりするなど、なかなかのしたたか者である。

【秦宮括】しんていかつ

銀河の外周に位置する西羌国の統治者。雷の人間の大きさに感じ入った彼は雷との共存を謀るが…。



鐘太鼓は
男壮に鳴り響き

戦闘未経験な
兵士達が初陣が
敵艦が近づく
興奮し
大声で
心を

敵の艦に
一番乗りした者は
莫大な恩賞を
与える!!

敵将の首を
討ち取った者は
万戸侯に
取り立てても
やるぞ!!

すさまじい
勢いで
突っ込んでくるな

ああいうのを
まともに
受ける気はない

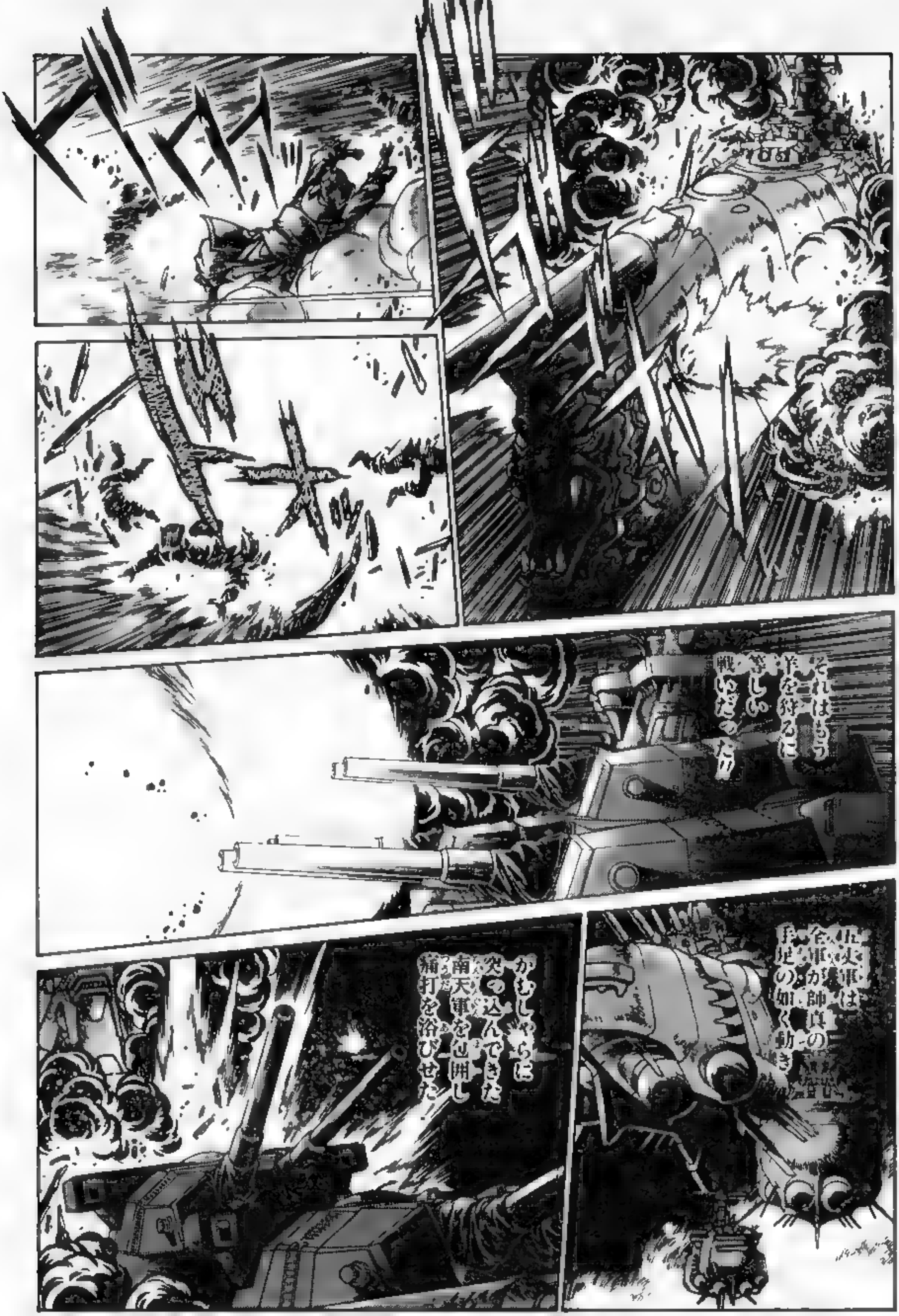
全軍を
左右に
開かせろ!

はっ!!

殿！
敵が二手に分かれました!!
ならこっちも二手に分かれろ!!

撃てぇーっ!!

うわあっ!!


ドドド

ようし
包囲の輪を
縮めろ！

一気に
殲滅させる！

おらおらおらーっ!!

南天の雑魚共!
その名を聞きゃ
泣く子もだまる
項武様だ!!

命の惜しい奴は
道を開けろーっ!!

うおりゃあああ

どけどけ——っ!!

ハカモノ!
退くな!!

戦わんか!!

やつを倒せば
万戸侯だぞ!!

ならてめえが相手しな!

く……っ!!

ぎゃあっ

へん！
神楽の方がずっと張り合いがあったぜ！

五丈が誇る
勇将と
精兵の前に
寄せ集めの兵に
過ぎない南天軍は
為す術もなく
屍の山を築いていった

ええいっ
何だ
あの連中の
及び腰は！
戦に
ならねえじゃ
ないか〃

かまわん！
グニャグニャ兵士共に
鳴を入れてやれ〃

ぎゃあっ!!

砲弾(ほうだん)を
浴(あ)びたくなければ
戦(たたか)え!!

南太の兵士にとって
北京沖は地獄と化した

退くも進むも
死しか
待っていなかったのである!!

退がるなって
いってるのが
わかんねえのか!!

やはりな
豪の定
味方の砲撃を
浴びて
追い返された連中が
向かってくるぞ

全軍に
第二戦の
用意を!!

けっ!!

何度来ても同じことよ返り討ちにしてやらあ!!

あわわ

やっぱりかなわねえよ!

逃げろ!!

退がるな！

逃げ出す腰抜けは死あるのみだ!!

ぐわっ!!

そ…そんな!!

ま…まってくれ

「戦」「戦」う…

戦うよ!!

味方に討たれるくらいなら敵と戦って死ねい!!

再び敵に背を向けた奴は容赦なく斬る!!

神王!!

ふふん

今度は
よく戦ってる
じゃないか

見ろ!
やれば
できるだろうが!!

ようし
敵の前線に
砲撃を
くわえろ!
援護してやれ!!

しかし
それでは
味方の損傷も
なって
我が軍にも
被害が出ますぞ!!

構わん!!

ズバッ

な…

何(ぬ)に

いっ!?

おいおい

敵味方(てきみかた)

お構(かま)いなしかよ!!

羅候(らこう)のやつ…!

ようし
敵の前線が
崩れたぞ〝

第二陣かかれ――っ!!

六紋海での
恨みをはらすんだ!!

ヨホホホ

俺達も続くぞ!!

全艦前進!!

竜我が!!

戦はこれからだぜ!!

おいっ見ろ第二陣だーっ!!

増援だぞーっ!!

いや…おいちょっと…

うわあっ!!

数は少ないが
六紋海の生き残りで
第二陣の突進は
凄まじいものだった

彼らは
味方の屍まで
踏ちらし
屍を乗り越え
五丈兵に
襲いかかる

九秤までの
五丈の圧勝ムードを
一転して
大混戦となった

そして
第三陣である
親衛軍団の
参入により
攻防の流れは
逆転したのだった

師真(しこん)
まずいぞ
旗色(はたいろ)が悪(わる)い！

兵も
疲(つか)れて
きてる〃

……

〃

魔王様!!
兄者!!

どうする気なんだ!?

殿からの命令も来ている！いつまでここに居座る気だ!!

機関故障中だ!!

故障中だなんて…そんなたわ言並べても済まされねぇぜ!!

わからんのか弟よ!!

これだ!!

この五丈の将軍位の印綬だ!!

これを受け取った限りは動いてはならんのだ!!

しかし…

よく聞け弟よ!!

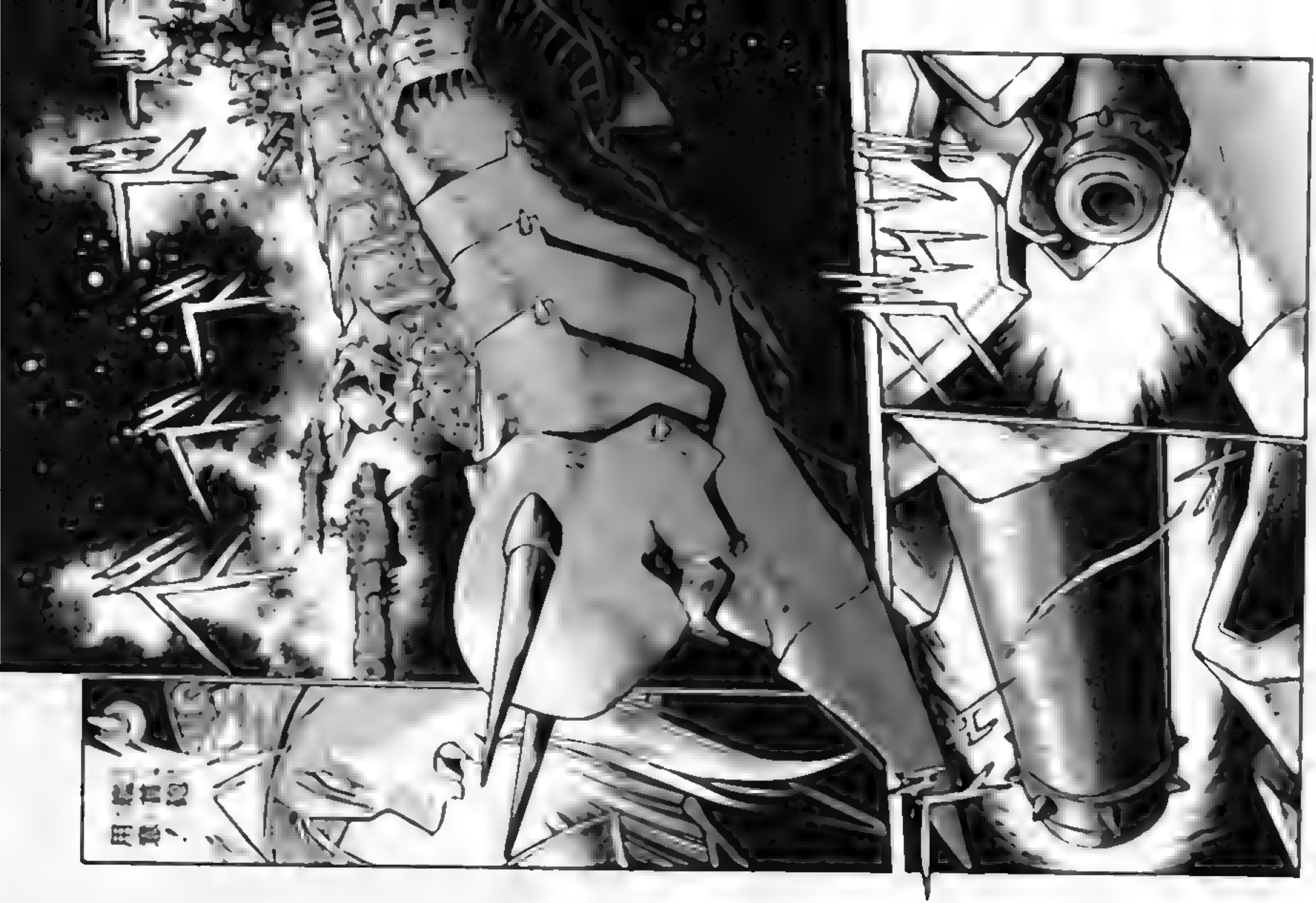
俺達が裏切らない
ことで
殿への義…

俺達が加勢しない
ことで
竜王への義を
果たしているのだ…
だから
動いてはいかんのだっ"

もし
動けば…

破滅だぞ…"

兄者ぁ…！



四号破甲榴弾
装填完了!!

撃てぃっ!!

発砲諸元
算定、終了!
射撃準備よし!!

な…
何(なん)だぁ!!

うわあああっ!!

くうっ!!

…はずれた…!!

どこからだ!!

巨砲艦かっ!?

あ…兄者…

こ…これは!!

敵の旗艦からです!!

何いっ!?

この砲撃は…

竜王の意志だ…!!

我々に謀叛を促している…!!

然らずんば死か…と!!!

だめだ…!

だめだだめだ兄者!!

それだけはだめだ…!!

俺達は南天の武人だぞ!!

やめてくれ頼む!!

後生だ!!!

許せ弟よ…!

こうなることを見抜けず使者を受け入れた時に もう南天の武人金角・銀角は死んだのだ…!

兄者~~っ!!

もう後戻りは出来ぬ…!!

お
お
お

押せ
押せ
押せ——っ!!
五丈の連中を
押しこめ——!!!

うわっ!!

ちくしょう！

こうや 一体 とーなってんだ!?

!!

殿（との）！

金角（きんかく）・銀角（ぎんかく）二将軍（にしょうぐん）謀叛（むほん）でございます

何（なん）だとおっ!!

ガチャ

この金角(きんかく)
故(ゆえ)あって
五丈(ごじょう)に味方(みかた)する!!

全軍(ぜんぐん)
突撃(とつげき)——っ!!

血迷(ちまよ)ったか!
このアホウが!!

ええいっ
かかれ!!

裏切(うらぎ)り者(もの)を
八(や)つ裂(ざ)きにしろ!!

だが
この後方の混乱は
将軍の謀叛と共に
瞬く間に前線の
将兵に伝わった

金角
銀角将軍が
謀叛!?

そうじゃ
わしらの退路を
断ったそうな!

げえっ
それでは
勝ち目は
ないぞ!

今まで
互角以上に
戦っていた南天軍兵士に
たちまち動揺が走った

また親衛軍団の
半ばが謀叛鎮圧に
向かったのも
災いした

逆に五丈軍は敵の動揺を見透かしたように力を盛り返してきた

今だ!!

押し返せ!!

んぐわっ"
敵は乱れたぞ！
続けーっ!!

南大軍は
完全に浮き足だった

こうなると
残された道は
一目散な逃走と
民衆暴動しかない

退却する軍と
後方の軍が
入り混じり
混乱状態に
輪をかけ…

我先にと
逃げまどう兵は
互いに踏み殺し合う

その
陣容が崩れた今
雑兵に押し止めろ
ことができなかった

ちくしょう！

左右両軍壊滅です！

支えきれませぬ！

殿！反乱軍を防ぎきれません本陣に迫ってきます!!

おおおおっ!!

と…殿!!

本能寺機関部に二発　致命的な被弾があり航行不能であります！

ぐぐぐ…

殿!!

と…

殿？

道を開けろーっ!!

竜王の旅艦に向かうんだ〃

船を出せ…！

と…殿お気は確かでございますか〃

このような小船一隻で

つべこべいわずに行けいっ!!

形勢は
完全に逆転
しましたな

すでに
残敵掃討の
段階に
入っております

よし！

南天軍旗艦
帝虎…
捕獲しました!!

羅候は!?

わかりません！
すでに退ち去った
模様です！

ちっ
大魚を
逸したか

いかがなされましたか 竜王様

あれを見ろ！

あぁっ!!

軍師様！

軍師様！

早～!!

竜我よ！出てこい!!

羅候!!

この戦乱は
俺と竜我との
争いだ！

なれば
これ以上
兵士の血を流すな！
大将同士で
勝負をつけようじゃ
ないか!!

どうした
竜我！
おじけづいたか!!

……

お待ち
ください…！

羅候は
血迷い
思慮なく
深入りし
立ち往生して
いるのです

殿下が
つき合う
必要はございません！

ここは
私に
おまかせを…！

そこに
見えるは
帝天王と見た！

王として軽々しい
ことはやめなされ！
万一のことあらば
後悔なされ
ますぞ〃

だまれ このペテン師野郎！
てめえじゃねえ！
竜我を〃
出せ！

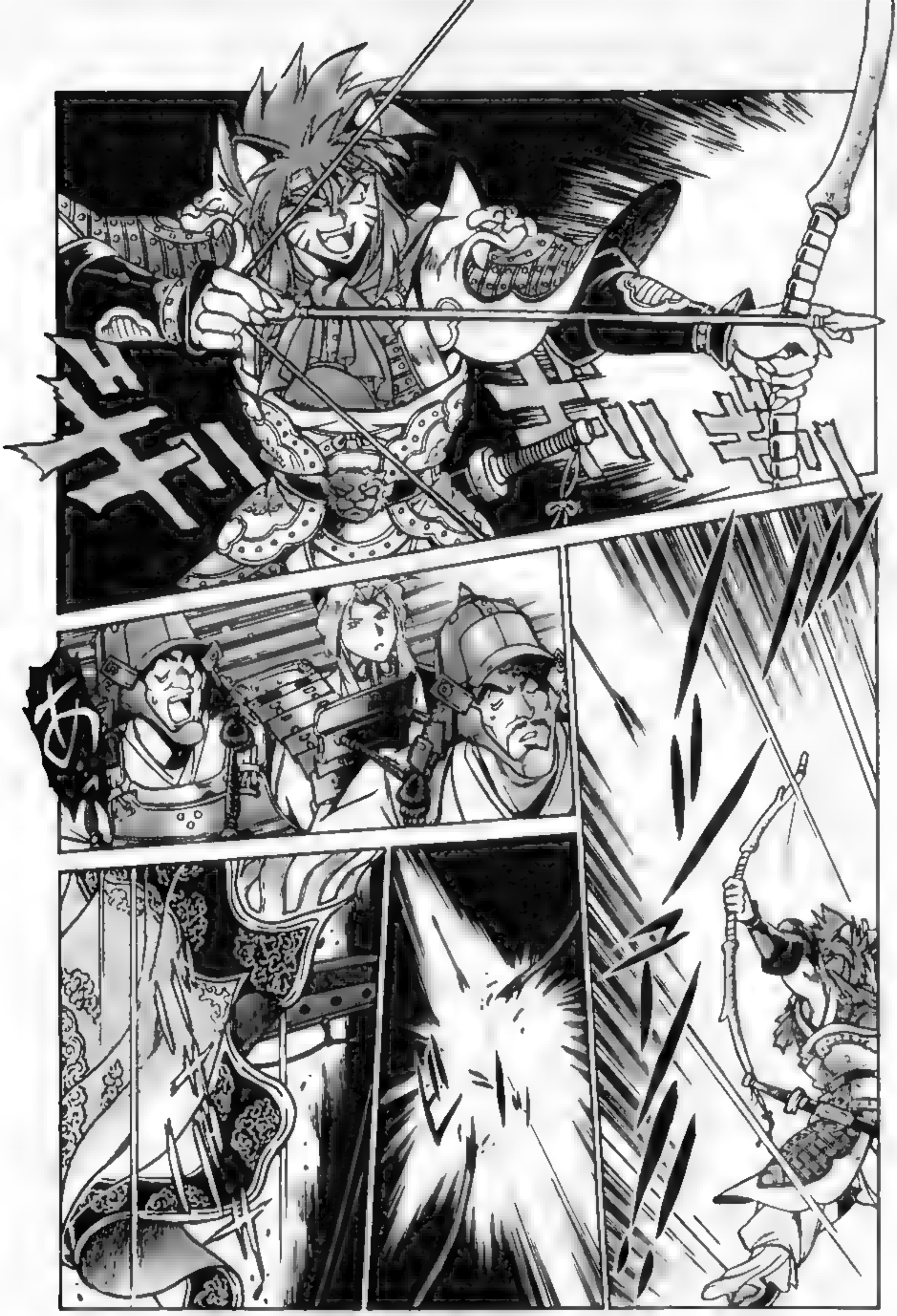
ん！
竜我か〃

竜王様は
おまえなど
相手にはせぬ！

何いっ

なら
出てくるように
してやるわ〃

〃



おおっ

大将軍か！

どうだ!?

これでも出てこねぇ気か”

おろかな…

こい集団戦争の世に
大将同士の一騎打ちなど…

非論理的な
“つわもの”よ”

放てーっ!!
ヒュン
ヒュン
ヒュン

ぐっ…!!

殿(との)!

羅候様(らこうさま)ーっ!!

羅候様!!

殿!!

ケホッ

ケホッ

しっかりなされませ!!

や…やりやがったな…

覚えてろ!

へっ裂きにしてやる!!

ひ…ひぃ…無茶です!!

おやめくだされ!!

ぐ……!!

うわっ!!

ぐはっ!!

くそったれぇ"

これまでかよ…

いや 阿天王
閻魔とも
あろう者が
こんなところで
くたばって
たまるか"

せめて…
奴に一太刀
浴びせて
くれる"

竜我(りゅうが)よ

出(で)てこい!!

出(で)てきて…

この俺(おれ)と
戦(たたか)え!!

待て!!

竜王様…！

はへ？

出てこやがったな…！

やいっ 貴様！

今まで何してやがった!!
そんなにこの俺と戦うのが怖いか!!

私をつけろ！

……？

はっ

私を殺せ！

……

なぜ

黙じよ

待(ま)たせたな羅候(らこう)！

おおっ!!

待(ま)ちくたびれたわ!!!

どうした!?

さっさと
刀を抜けよ!!

その身体では
俺とは渡りあえん

何い!?

兵を収めろ
羅候…!

傷を癒し
兵を立て直して
今一度
この俺に挑め!

勝負は
それまで
預けておく!

な…
何だとお…

あっ
おいっ!!
ちょっと
待て!!

竜我
逃げる気か!!

待てと
いってるだろうが!!

う…

うう…!!

騒ぐな!!

!!

…気はすんだか

羅候…!!

ま…

まだ

まだ～っ!!

おまえを八つ裂きにせねば…!!

腹の虫がおさまらん…!!

死ねえっ!!

竜我があっ!!

死ね…

竜我…

陛下……!!

これは…早く手当てを!!

医者を呼べっ!!

駄目だあ——くくくな

そんな顔するなって

後はまかせたぞ師真…

ガシィッ

……

いてて…！

ぐ…軍師様！羅候を捕らえましょう”

今なら難なく…これで天下は電王様のものです！

聞いてなかったのか？

電王様は羅候に今一度戦おうと申されたのだ

我々に何ができよう…

……

!!
静香の
魂の一撃が
ここまで神へ
突進してきた!!
何!?
!!

ええいっ
何をしてる
敵を阻め!!

本陣に一歩も
近づけては
ならぬ!!

いや
手を出すな…!
陣を開け
やつらを
引き入れるのだ!

ぐ…軍師様…!!

ゴゴゴ

きょ…
亜子最…
ご安心ください
殿…
亜子最
ただ今
帰りましたぞ…

姜子昌…！

あやつを倒さぬ限り…

関夫を射止めたとは
口が裂けても言えぬな…！

何いっ!?
姜子昌だとおっ!?

はっ
あそこを
退却して行きます！

追えっ!!

しかし
軍師様から
追うなとの
厳命が
届いております！

俺は
聞いちゃ
いねぇ!!

おいっ
アレだ

アレ
蒸してこい!!

はっ…

ははぁっ!!

大将軍！
敵艦が一隻
後方より
接近してきます!!

来るぞ!!

総員構え——っ!!

お願い…！

姫様に
文を
渡してね

男どけっ！
おんなスカした
男かは知らねぇが…

つまんねぇ
野郎なら
ぶった斬ってやる!!

どりゃあああっ!!

ええいっ
どけ
どけ――っ!!

きさまら
雑魚(ざこ)には
用(よう)はねえ!!

姜子昌(きょうしいう)を
出せいっ!!

奴(やつ)に
用(よう)がある!!

邪魔(じゃま)
すんなって
いってんだよ!!

ぎゃっ!!

威勢(いせい)が
いいな

若(わか)いの…!

わたしが
姜子昌(しょうしし)だ…!!

こいつが…!

こいつが
そうか…!!!

ふん…！
なるほどな
さすがは
帝国軍千八百万を
率いる大将軍と
いうことはあるぜ…!!

降ってのか
ねえぜ
こんちくしょう…！

それに…

俺より
いい男だってのも
認めてやる!!

わたしに
何用だ？

ふん!!

てめえの
部下だった
神楽を
覚えてる
だろうな!!

神楽？

そうだ
あの
怪力女だ!!

こいつを
見ろ!!

ドーン

その
神業が
おめえのために
作った
とっておきの
餃子だ!!

こいつを
食って
もらおうか!!

さあ
食えっ!!!

食って
感想を
聞かせろ!!

そうか…
無事だったか…

それは
よかった…

だが
これは
食うわけには
いかん!

な…

何だとおっ！
てめえ!!!

もう一ぺん
いってみろ!!

神楽はおぬしの所にいるのか？

うっ!!

あいつが
そのためにどんだけ
苦労したのか
わかってんのか!!

買い出しも
自分でしたし
寝ずにこさえ
たんだぞ!!

それを
開けも
せずに…!!!

それでは
ますます
食うわけには
いかぬな

人の女からの
もらい物…

受けとっては
道理が立つまい！

もういい

ズドーン!!

こんなスカした野郎のためにこっちは味見まで付き合ったかと思うと腹が立つ!!

ドタマかち割ってやらあっ!!

大将軍危ない!!

どけぇっ!!

お退がりを!!

うおおっ!!

とっ

とっ

とっ！

やるじゃないか…！

そうこなくっちゃ つまらねえ!!

な…

おいっ
どこへ行く!!

まだ
勝負は
ついて ねえぞ!!

よくできた餃子だ…

これだけのものを作るには さぞかし苦労しただろう

食えば さぞかし美味かろうて…

おめえ…

それが
一番(いちばん)だと
思(おも)わないか

あ――もう
かったるい
野郎(やろう)だぜ!!

そこまで
いうなら
もらってやる!

いっとくけどな
俺(おれ)はうまいもんが
好(す)きなだけ
だからな!

そこんとこは
勘違(かんちが)いしないで
くれ!!

ほこり
だらけだな…

おまえの
せいだ

奥様
どうなさいました!?
何か
いきなり
腰が抜けた…
まあ
旦那様に
何かよからぬことが…
大変!!
何で
そっちに
話をふるーっ!?

あいつに
何かあったって
あたしにゃ
関係ないの！

第一
どーにか
なりそーな奴？
あいつが！

ふんだ！

あー
うまい!!!

奥様!!

う――――っ
今度は心臓が
バッコンバッコン
する～～～～!!

旦那様の
ことを
思い出したのですね！
それで胸が!!

キャー♡

だから
そっちに
持ってくなって
てーの!!

何だよ
もう…

今日は
早く寝よ！

Diesel
いつかは
してやってくれ…

ちっ！

いいか姜子昌！

次会ったら容赦しねえぞ!!

覚えてろ!!

こうして南天領内での初の両軍主力の激突は

苦戦はしたが五丈軍の勝利に終わった

負傷した羅侯は残存兵力を率いて首都八王山に敗走したのだった

バカヤロウ!!

……

俺は一瞬
血の気が引いたぞ
どーいうつもりだ
手負いの虎相手に
背中を見せて"

今まで
俺達が目指した
天下取りへの苦労を
無にする気か!!

聞いてんのか!!
こらっ!!!

あ——
もう聞いてるって

そうがなるな!
傷に響くだろ

当然だ！
自分の軽率さ故の
痛みだろ〃

そーいうな
こっちは
斬った斬られたの
戦場て生きて
きたんだ

とっさに
相手の攻撃から
急所を外すぐらい
身についてるさ！

あの場は
斬られてやるのが
いいと思ってな

ど――して!?
痛い目
あうだけ
だろ！

何て
いったら
いいかなあ…
口では
いい表わせ
ないけどさ

……正直
おまえの
そーいう部分は
俺には
よくわからんよ

ほ――
じゃあ
他は全部
わかってるって？

大王理まで寝てろ！

いてぇ——俺ケガ人なのに～

いて…

将軍！いかがなさいました？

何だか腹が…

あ…こりゃいかん…！

何か食中りっぽい…ここまかすぞ！

食中り？

落ちてたモンでも拾い食いしたんですか？

やかましいっ!!

キュルルキュル

北京沖の会戦にて
決定的な
勝利を得た五丈軍は
ついに南天中央部の
城門を押し開けた！
もはや首都大王理まで
五丈軍を遮るものは
何も無かったのだ！

……

どうした
両将軍とも

いい加減に
顔を
上げられよ！

その方らは
充分な戦功を
挙げたのだ

何を
気後れする
ことがあろうか

……

それとも
顔を上げれぬは

おぬしらの
帰順…
二心でも抱いてのことか？

め…
滅相も
ございません…!!

先頃
五丈軍の将軍位の
印綬をいただいて
以来
我々兄弟は
陛下の家臣です!!

二心など
とんでもない…!!

これからも
竜王様のため
五丈のため
忠節に
励みます!!

ですから…
こたびの
遅参の件…

何とぞ…

ふふん
そのような
気にして
おったか

おぬしらとて
主君を変えるには
胸の痛みも
あったろうて

そのくらい
わからぬ
竜我ではない

遅参など
枝葉の問題
俺は気にも止めぬ

ま…まことに…!?
あ…ありがたき
幸せに
ございます!!

お許しいただけるなら
ただちに大王理に
赴き
全住民を城門に
並ばせ
香を焚き
陛下を出迎え
させましょう

そんな必要は
ない!

は…
こ…
これは
出過ぎたことを
申しました…

退がって
兵を休ませるが
よい

はは――っ!!

……

師真！

あの二人
決して重く
用いるなよ

そして
俺が天下を
収めた暁には…

引き出して
斬れ!!

ニヤリ

なぜ
金角・銀角を
斬るのかだと？

はい…なぜ
あの二人だけ
ああも
厳しい
ご裁断を

今まで陛下は
主君を変えた者
ご自分と対立した者
ことごとく平気で
家臣にしたでは
ありませんか

今までではな…

戦国の世…
人の出自に
こだわっていたら
人材など
集まりはせぬ

だが
悲しいかな
その主君を裏切っても
相手方に利益を
もたらせば
重んじられるという
風潮をも
もたらしてきた

確かに…

今は
目をつぶっていても
天下統一後には
ただの弊害に
しかなりません

あの二将軍は
羅候の臣としては
不忠者だ

こたびの会戦での
やつらの裏切りは
羅候に勝機を…
天下を失わさせたのは
間違いあるまい

やつらを
統一後にあえて
引き出して
首をはねることで
天下にこう宣言するのだ

"主君を裏切る者は
許さぬ"とな

銀河唯一の
主君による
見せしめだよ

陛下は
そこまで
お考えで…

天下の趨勢は
決まりつつあるとはいえ
ご自身まだ
羅候と刃を
交わしていながら
大したものよ

竜王様の物事への
果断さは
いつも驚かされます

先の先を
見ていらっしゃる…

あの先見さ
英断さ…

それが今
竜王と羅候の
決定的な
差になって
表れている

一方
北京沖の会戦に
破れ
自身にも深手を
負った羅候は
なすすべもなく
敗残軍の中に
身を置いていた

痛い
急所は
外れていましたが…

矢傷そのものは
深うございます
傷口がふさがるまでは
動かしてはなりませぬ

今はお薬で
お休みになって
おります

わかった…！

怒ったり
どなったりは
禁物で
ございますぞ！

それでは
お大事に…

起きてるぞ！

殿…

お目覚めでしたか

痛くて寝れんのだ！

あのヤブ…〃

ギリ!!

ギリ

それで——

この艦はどこに向かっている？

……

大王理を捨てたのか…

……

……

笑えよ！

おまえを退け大軍を率いてこのザマだ…！

おまけに雑兵に撃たれ命を落とすところだった

不様だろ？

どうした
笑わねえのか？

殿…

笑うなど
とんでもない…！
素人同然の
兵を率いて
よくあそこまで戦い
五丈軍の心胆を
寒からしめました
殿なればの
戦いぶりです

バーカ!!
気休めは
いうな！

けど
その兵も
もういない…

俺は
すでに
兵をもたぬ
国王だ…

俺は…
俺は…

殿！
お気を
静めなされ
傷に悪う
ございます…！

姜子昌!!

南天は…

南天は
亡ぶのか!?

このまま
五丈に
亡ぼされて
しまうのか!?

俺は
どうすればいい!?

南蛮の奥地に
閉じこもって
息を潜めているしか
ないのか!?

竜我の…

やつの軍門に
降りたかねぇ!

やつの股なんか
くぐれるか…!!

けど…!!

俺にはもう…

何の力もない…!!!

……

お殿…お忘れになりましたか…？

まだ国号を練と呼んでいた頃…

先王を亡くし正統率いる智からのありとあらゆる圧力と闘いに耐え忍んだ日々を…

そんな時期に臣下は誰一人練を見捨てはしなかったではありませんか…”

なぜです？

わたしを始め
皆
「殿なら天下を
取れる」と
信じていたから
ですぞ！

姜子昌…

俺…

強く…！

強く
自信を
お持ちくだされ!!

確かに
南天建国以来の
名将は少なくなりましたが
殿のために
命を投げ出す
良将・強兵は
いくらでもおります！

南蛮で
英気を養われ
彼らを率い
捲土重来…！

必ずや
驕り高ぶる
五丈の鼻を
討ちのめしなされ！

殿なら
できます…!!

羅候…

どうしてるぞ…

どうぞ…

な…泣いてなんかいねえ!!

ぶっ

!!

ゴシゴシゴシ!!

ズキーン!!

さあ
今はお休み
なされ

姜子昌…

もうおまえを
手放したくは
ないんだ

頼む
側にいてくれ…

ご安心を…

側に
控えております

王妃様
いけませぬ!!

羅候ーっ!!

お…お待ち
くだされ!!

だんかーっ!!

!!

羅候っ!!!

チャン!

チャン!

ねえ
どこか痛いの!!

あたしに
看病させて!!

しっかりしてよ
もうっ!!

ぐわっ…!!

あ

大丈夫よ
南蛮にはさ
立派な医者が
たくさんいるし
お薬も
いろいろあるの!

ケガによく効く
温泉だって
あるし
いい祈祷師も
いるわ!

すぐ
治るわよ!!

それから
それから…

陰…
お別れ
ございます…〃
殿から受けた
ご厚恩…
妻子最…
忘れは
しません…〃

おい…
姜子昌(きょうししょう)！

姜子昌(きょうししょう)…

姜子昌(きょうししょう)!!!

姜子昌(きょうししょう)〜〜〜っ!!

ふぅ
ようやく
おわりました
今回
本当に
疲れてます”
うむ
それでは
もらう”

その頃、
羅候が大下に赴き
弔合するために
築かせた
南天の首都大王理は
異様な静けさと
恐怖心に
覆われていた

城門の主だった者は
王妃邑峻らと共に
逃げ出し

行くあてもない
何百万もの住民は
家族を連れて
山や林に逃げこみ
彼らにとっては
未知の進駐軍である
五丈軍の到着を
震えながら待った。

一部の将兵は首都外周部の守りを固めていた

武士の一人として逃げ出すのは

自ら彼は戦場も交えず都を捨てる

だが一般兵士の士気はふるわずすでに戦意を喪失していた

そしてそんな彼らの目の前に日を剥くような大軍団が姿を現した

ゴゴゴゴ

守りについている城兵よ
よく聞けいっ!!
無益な籠城は都の住民を苦しめるだけだ!
金角・銀角将軍じゃ!
それに見よ多くの南天兵もいる
皆降伏したのだ
これでは勝ち目はないぞ

南天

……

……

すでに
羅候様は
都を捨てたと
聞きおよんでいる

主無き都を
守っても
致し方ないではないか！
早々に都を
明け渡せ!!

だ…
だまれ
だまれ！

恩を忘れた
下郎が
何をぬかす!!

我々は
きさまらのように
腑抜けでは
ないわ!!

何をしておる！

あの裏切り者を
ふき飛ばせ!!

……
おおっ！
台からの
白奴が
ましたぞ
おう！

さて
それでは
虎の巣を
拝見させて
いただくか

兵を率いての
入城は
無用の混乱を
呼ぼう

主力はここで
宿営させる

皆は
共に参れ！

あ祝ささやかだが
祝宴を
あげよう

待って
ました!!!

南天の酒は
どんなもん
だろうなぁ！

どぶろくか
なんかじゃ
ねえのか

兵士達にも
今日一日だけは
無礼講を許す

はっ

陳群！
城の酒蔵から
酒を皆に
配ってやれ！

こうして
雷は
ついに羅候の居城
大王理に
入城したのだった…

雷天

先の智の南帝閣に
続いて
先主弾正公の夢を
雷が実現したのであ
る

雷が旗揚げして
八年余の歳月が
流れていた

静かなものだな
人っ子一人いねえ

城内の人間は
皆 山に逃げ込んだ
そうであります

まあ
突然
異国の軍隊が
やってきたわけだ
逃げ出すのも
当然か

だが
無理に
おびえさせる気も
ない

師真
高札を立てて
住民には危害を
与えぬと
布令させよ

おまえ達も
兵士に
乱暴なふるまいを
させぬように
よく引き締めて
おけ

はっ!!

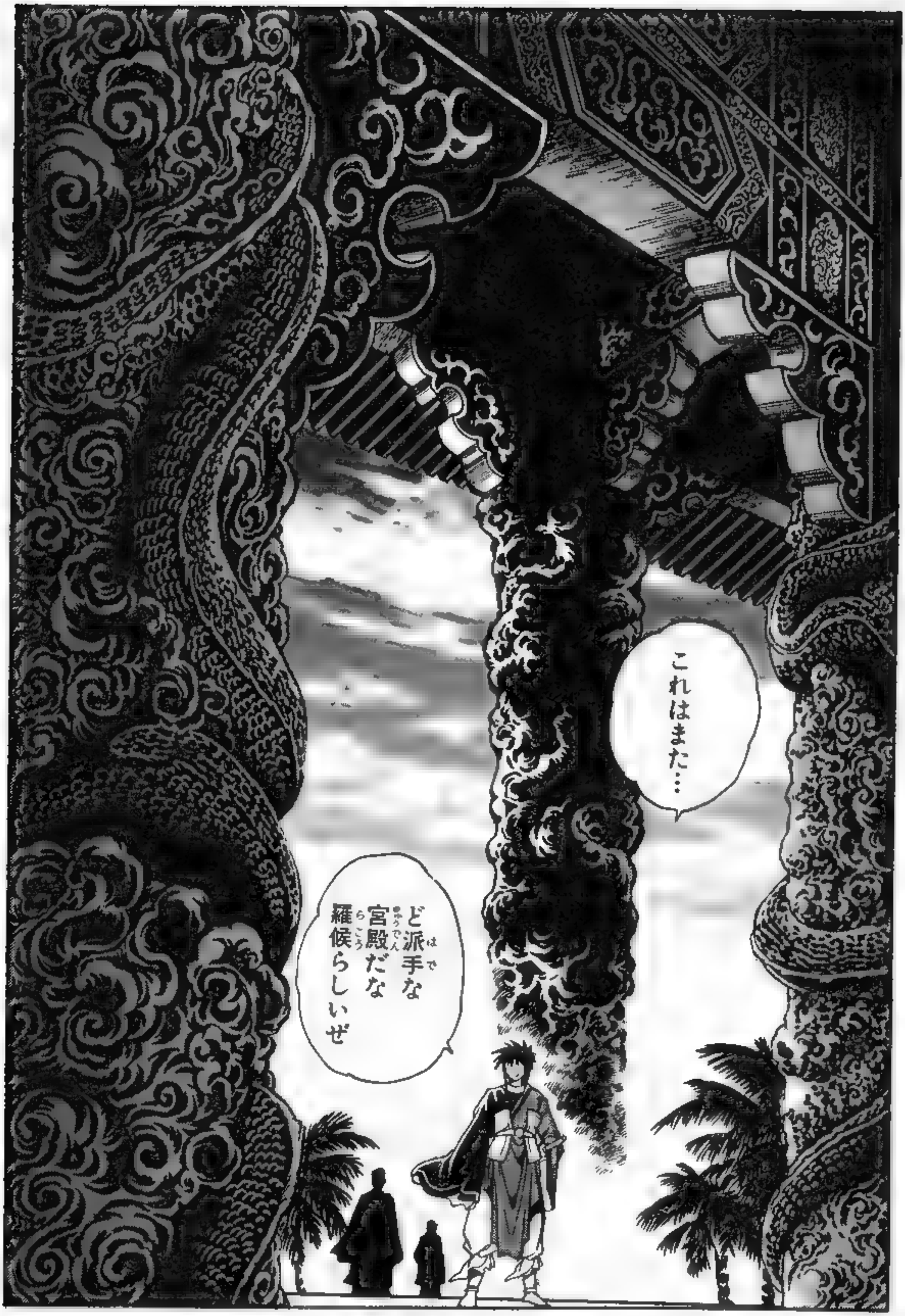
こうして
そこここに
立てられた
高札を見た
住民は

恐る恐る
ながら
山からおりてきた

雷に
帯同している
兵士が
思いの他
少ないせいも
あったのだろう

竜王様
こちらで
ございます

おおっ!!


これはまた…
ど派手な宮殿だな羅候らしいぜ

このような
宮殿が
三十六宮
あるそうです

いやはや
帝虎級戦艦を
ポンポン
造れるわけだ

斉王都で
四苦八苦して
三楽斎に
見せて
やりたいものだな

……

いかがなされ
ました？
師真様

いや…
少々
気にいらんな…

官僚や
兵士共が
逃げ出したに
しては
整然と
しすぎていないか？

はあ
そういえば…

庭も床も
掃き清められて
いるし
水まで
うたれているぞ

は？
何がです

ん？

何者(なにもの)だ？
おまえ達(たち)は

はっ
この城(しろ)に仕(つか)える
下男(げなん)・下女(げじょ)で
ございます

おまえ達(たち)は
逃(に)げ出さな
かったのか？

はあ…
もう船(ふね)に
我々(われわれ)を乗(の)せる
余裕(よゆう)はないと…

それで
我々(われわれ)は新(あら)しい
この城(しろ)の主人(しゅじん)のため
城内(じょうない)を掃(は)き清め
お待(ま)ちして
おりました

そーいうこと
みたいですよ
師真様…

ご苦労(くろう)な
ことだ

おかしい

逃げ出すにしても
雑候のことだ
火をかけるぐらいして
我々には
何も残さぬと
思っていたが！

後宮の美女達も竜王様をお待ちしておりました

ほ――

英雄色を好むともいうからな

あとで酌でもしてもらおう

レェ！

宝物庫でございます

ここも手つかずのようだな

項武！
よしきた！

こいつは
すげえや！

これだけでも
五丈(ごじょう)の国家予算(こっかよさん)の
倍(ばい)…いや
三倍(さんばい)はあるかな

ほおぐぐぐ

紫紋(しもん)達(たち)に
土産(みやげ)として
いくつか
持(も)って帰(かえ)って
やるか

麗羅(れいら)
なんかは
こーいうの
好(す)きそうだな

竜王(りゅうおう)様(さま)！

どうだ師真おまえも華玉に！

これら財宝は軍資金に回しましょう！

兵士達の恩賞分もありますし…

金はどんなにあっても足らないぐらいですぞ！

これ一個だけでもだめか？

余・れ・ば!!

さあさあ目の毒目の毒

出ましょう

あいつ…こんなの似合わねえよなあ

銅巻いてるようなやつだし…

項武!!

はいはいはいっ!!

……

やれやれこーいう時はおまえお堅いなあ

うーん
余は
満足である！
宿敵の
玉座に
座った感触は？
いかがで
ございますか
なんてな！
宴席の
仕度が
出来ております
さあ
どうぞ
いらしてください

皆よく戦ってくれた感謝するぞ！

はは――っこれも竜王様の威徳のおかげでございます！

こうして大覚屋師真の心配を他所に雷達は久しぶりの勝利の美酒に酔ったのであった…！

竜我雷…！
大覚屋師真…!!

おまえ達を
倒せるなら
この命懸ける
価値がある…!!

南天の未来…
殿に任せました…!!

殿…!!

だが待てど
暮せど
南天軍も西羌軍も
動かない
南天からの連絡も
途絶えがちとなる

ただでさえ
情緒過多気味でもある
皇太后の
いら立ちが焦りに
変わっていくのも
無理はなかった

自分の息子達の
武勇があれば
たちまち天下を覆せると
思い込んでいた
皇太后である

だが現実には
新銀河帝国建国の
過程における
西羌王国の存亡を懸けた
条件闘争であることに
気付いてはいなかった

皇太后様
相氏の
万殷寂様
お越しになられました

待ちかねて
ました！

早う
これへ！

皇太后様に
お目通り
賜ります

万殷叔で
ございます

おおっ
先生
よく参られた

お元気で
何よりです！

この万殷叔は
西羌では著名な
占い師であり
特に皇太后の
信頼は厚く
その言葉は
西羌王朝の行方を
時として左右させるほどの
重用ぶりだった

さっそくじゃが
どうじゃ？

わらわの
顔に何か
出ておらぬか？

？

ずいぶん
せかすもんじゃ
何をそう
いら立って
おるのか…？

あの性格じゃ

めったなことは
いわぬに
限る…！

いかがした？

早う
吉凶を
見てくだされ？

何か大事でもおありですかな？

おお さすがは先生！

おわかりになりますか？

実はのう南天と計って五丈を討とうと思い息子達を斉王都に向かわせておるのじゃ

五丈を討つ!?

何と…！

そうかそれで読めたわ大凶の相が出ておる…!!

御安心くだされ 大願成就いたしましょう

ま…まことか!?

ハイこの上もなく良き相が出ております

百日もたたぬうちに天下は皆西光になびきましょう

何と…!!

いや
先生に見て
もらって良う
ございました

心のモヤモヤが
晴れた思いです

お役に立てて
うれしゅう
ございます

これ！
先生に
おもてなしを！

パーン
パーン

上機嫌に
なった
皇太后は
万殿寂を
厚く歓待し

重ねて
帰り際に
多くの黄金を
与えて
慣したのである

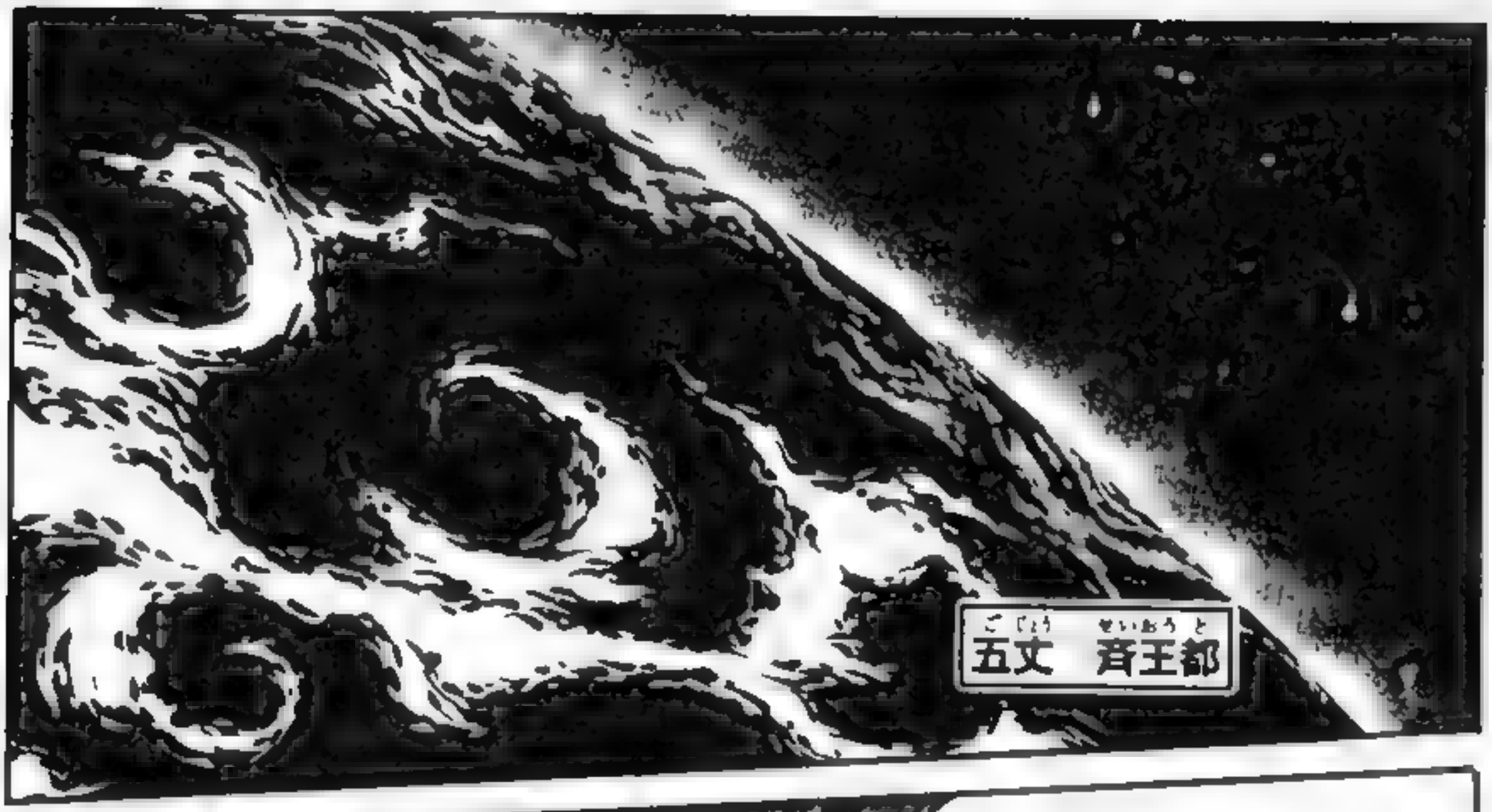
いろいろ
世話にもなったが
共に心中するほどの
義理もなかろう

人事で
天命を変えることも
できようが…

占い師風情では
ここらが
限界じゃ

ああ…
この美しき宮殿も
麗しき山河も
もう二度と見ることは
あるまい

こうして
万殷寂は
その日のうちに
都を後にした



諸侯よ
今日の宴席は
北京沖会戦での
我が五丈の大勝の
喜びを共に
分かち合いたいと
竜王様から
酒を賜れたものじゃ

我らも
竜王様の
勝利を祝おう！

竜王様万歳!!

大五丈国万歳!

万歳!

万歳!

万々歳!!

北京沖で南天の主力を撃破したのなら もはや大王理まで邪魔するものはあるまいて

まことと大将軍の■■される通り!

今頃陛下も羅候の玉座にて勝利の美酒を楽しんでおられるやも

わはは勝利の酒の味は格別じゃ!

そうじゃそうじゃいよいよ天下が見えてきましたぞ!!

いや長い戦乱の時代がようやく終わろうとしておるのか…

！

ふふふ

あの男が天下をとるであろう

北門の未来に光があるとは

公叔文遠が東門のセガレとはいえ

新生五丈国が建国以来の圧倒的な

そして
五丈の対西羌方面の
最高責任者

三楽斎様
今宵はめでたい日
どうぞ
一献
お受けください

ああ
こりゃスマンですのう
美人の酒は
さぞかし
旨いでしょうな

まあ
お上手

さささ
孟閣様も
ぐっと
あけてくだされ

皆様方も
どうぞ

ハハハハハ

まずいことになった…！

竜王の軍を南天奥深くまで引き込み帰ろうとも帰れなくしてわしの手引きで西羌軍が都を襲う…

その筋書きが今度の敗戦で全て水の泡じゃ…

もはや南天に遠征軍を牽制する力はない…！

…となると西羌は一国で五丈軍の圧力を受けねばならん…

例え斉王都を襲っても取って帰った五丈軍に蹴散らされよう

それでは竜王の天下統一を早めるだけではないか…!!

まったく南天の連中は信用できん！やつらさえ…

――様…

公叔様

え？

いかがなされました
公叔様

余りお酒も
進んでは
おられないご様子

あ――
いや…
ちょっと
考えごとを
してましてな

左様で
ございますか

お一つ
いかがですか？

そ…
それでは

どうぞ

ところで
公叔様は
東河の七賢人とも
呼ばれたお方…

わたしも
一時東河近くに
住んでおりまして

ほう
華玉殿も

はい
これも
何かの縁

お近付きの証として
ぜひ拙宅に
お招きしとう
ございます

わしを？

はい
ぜひ御高説を
お聞かせ
くださると
幸いです

ふん…

この女…
本当に
東河近くに
住んでいたか
怪しいものだ

だが
変に断ると
何かと
怪しまれよう…

ここは素直に
応じ
体よく
かわすのが
一番だ

おお
それは
それは

そこまで
いわれれば
招きに応じなくては
なるまいの

それでは
明日にでも

わかり申した
楽しみに
しておりますぞ

それは
ようございました

♬

梨雁(りえん)
奥方(おくがた)様(さま)…

ご苦労(くろう)様(さま)です

麗羅(れいら)様(さま)との
酒宴(しゅえん)に
お呼(よ)ばれなさって
いたのでは
ありませんか

それがさ
麗羅様(れいらさま)ったら
先(さき)に酔(よ)いつぶれ
ちゃってさ――

ぐぅ～ん――

まあ仕方(しかた)ありませんね麗夫人(れいふじん)ったら

あら？

きれいな簪(かんざし)ね

あ――本当(ほんとう)！

えっ!?

あっ
こ…
これは…！

あ…
あの…
そんな大(たい)した物(もの)では…

見(み)見(み)せて
見(み)せてー！

わっ
すごーい
高(たか)そー！

あの…
頂(いただ)き物(もの)
なんですぅ～

梨屑にも
いい人がいるのねー

あ…
あの…
その…

……

雷様でしょー!!

そ…そんな
いや…雷王様だなんて…!!
その…きっとお戯れで…!!

やっぱりね

何となく
趣味というか
センスが
同じだなあって

はい
返すわ
大事にしてね

奥方様…

お許し
いただけるのですか…？

わたし…
長年お仕えした
奥方様を
裏切るような
ことをして…

許すも
許さないも
うちの人
あーいう人だから…

ね！

けど
麗羅には
見つからないようにね

わたしと違って
怖いわよ

は…はい

気を
つけます…

それと
梨扇

はい

雷はね
決して戯れで
女を
抱いたり
しないわ

あなたのことを
いとおしく
思ったからよ

は…

はい…

いいんですかぁ？

何が？

何がって…

雷様ですよ～～～
紫紋様が
いらっしゃるのに
あちこちで
浮気してる
みたいだし～～～

こら辺で
女がビシッと締めないと
男ってすぐ
つけ上がっちゃうん
だから！

そんなこと
一々気にしてたら
身がもたないわよ
後宮には
三百人もの女が
いるんだし

時々
度が過ぎてると
お灸をすえて
やるけどね

えっ
そーなんですか！
…で雷様は
何て!?

それがね――

昨晩の首尾はいかがでした？

あ…怒ってる？怒ってる？

うん!!

安心しろ！

他の女を抱いてる時も俺はおまえを見てるんだから！

どーん!!

…てね

でもわたしはわかっているの

あの人はね他で何をしようとも

結局はわたしの許に帰ってくるしかないんだから…

だからわたしは何の心配もしてないわ

うぅぅぅぅ

何だ？俺の噂してる奴がいるな

ははは普段から悪い噂まき散らしてるからな

うっせーてめえ程じゃねーや！

はっいってくれたな！

副軍師どーぞどーぞいけるクチでしょ

そんなーあんまり飲めないんですからしょーん

おういい林！

は…はい！

大王理に
入城する前に
斉王都から
届いた書状の中に
おまえ宛の
密書が
あったぞ

はあ？

密書～？

わたし宛に～？

悪いが
開けさせて
もらった

読んでみな
傑作だぜ！

え――と…

どれどれ

な…!!

な…
何ですか
これは――

おいおい
どーしたんだ？
何か
書いてたんだよ？

あっ!!

「あたし
林ちゃんのお嫁さんに
なることにしました
ふつつか者ですが
よろしくね」
蘭々

蘭々って?
ほら
奥方様の
お付きの…

わーっ!!

あはは
こりゃ
いいや!!

おめでとう
副軍師!!

もー!
何でこんな物
送ってくるんですか~~~!

いやー
隅に置けないね
林軍師も!

よっ!
祝言は
いつ?

いいじゃねーか
けっこう
しっかりしてるぜ
あのおチビちゃん

そうそう
天下の副軍師とも
なれば
そろそろ身も
固めないとなー

師真様に
いわれたくは
ないです!

俺はいいんだよ
めんどくせーし

おう
そういえば
公旦の姿が
見えんな
一緒に
降りてきたんじゃ
なかったのか？

あ
申し訳ありません
楽将軍は
体調が優れぬ
そうで…
船に残って
います
ハイ…

ふうん…
せっかくの
形ある勝利だ
共に分かち
合いたかったが…

おいっ
だれか
酒肴と酒を
届けてやれ

あっ
ではわたしが…！

こらっ
にげるな！

それでは
副軍師殿の
幸せを祈って！

あ――っ
もう
好きにして
ください！

……

母君(ははぎみ)
皇太后(こうたいごう)様(さま)の
命令(めいれい)でございますぞ
公旦(こうたんさま)様(さま)！

バカな…

そんな
バカな…!!

すでに
天下は治まる所に
治まろうと
しているのだ…

これ以上の
大乱は…

必ずや
西光に仇なすことが
おわかりに
ならないのか…!!

ご主人様

公叔様
お出になりました

お言葉に甘えて
お呼ばれに
参りましたぞ

これは公叔様(こうしゅくさま)
ようこそ
いらっしゃいました!

ささやかながら
酒席(しゅせき)も用意(ようい)して
おります
さあ奥(おく)へ

いいですな
酒(さけ)でも
酌(く)み交(かわ)わし
ながら
ゆるりと
やりましょう

それでは
ご一献(いっこん)

ありがたく
頂戴(ちょうだい)いたす

ふう
これは驚いた
まさに立て板に水とは
このことじゃ

華玉殿の
博識には
頭が下がる

お褒めに
あずかり光栄で
ございます

けれど
まだ先生に
比べては

わたしはヒヨッ子
これからも
いろいろ
ご教示くだされ

学問上の論議を
続ける内に熱が入り
酒のせいもあって
すっかり気を
許していた

おお
いつでも

最初は
華玉を警戒
していた公叔だが

そなたと
学問の話を
するのは
実に楽しい

ところで
ご教示ついでで
ございますが
お尋ねしたい
ことがございます

ほう？

ここしばらく
わたしの頭から
離れない
疑問でございます

この銀河に
我々が真に
討つべき者は
どこにおられます
でしょうか？

ぎょっ!!

ははは
少々酔われましたか？　何がいいたいか
よく
わかり申さぬ

なれば
学問の師として
先生に
お伺いしたい

竜王は
天下人に
相応しい男と
思われますか…!!

こやつ
わしを
試しておるのか…？

はてさて
何のことで
ござるか

相応しいのとか
どうとかなど…
わしらは竜王の臣！
そんなことをいえば
不忠者の誇りは
まぬがれませんぞ！

不忠者とは
心外！
わたしは五丈四天王
玄偉様の家臣

主君亡き後
行く当てもなく
女好きの丞相に
気に入られ
幕閣に
加えられただけの
こと！

何も
竜王が
天下人と思うて
こびへつらって
仕えているわけでは
ございません

隙あらば
あやつの命を狙い
亡き主君の
仇を討ちたいと
思えばこそ!!

何という日を
するのか…！

何度も荒しり
命を狙ったと
聞いておったが
あながち嘘では
ないようだな

そのような話をするということはすでにわしの心の内を読んでのことか？

はい…

ぜひお手伝いさせてくださいませ

よかろう華玉殿が味方とあらば行動を起こしやすい

味方にもいのに…これ程の武勇の持ち主で迫ってくる者を抱く者を使わぬ手はない…

実は西光・南天と示し合わせてこの斉王都を攻める算段がある！

おおっやはり…！私勇気を持って打ち明けた甲斐がありました!!

先生！今が絶好の機会です！

うむそれでのう…

油断している五丈軍など物の数ではございません！

人は夜明けまで語り合った

ふぉ〜〜…
掌玉殿
こんなに早くから
何事じゃ？
謀反で
ございます！
な…！
謀反〜!?
はは…
それは
おだやかでは
ござらぬな…
しかし戦場は
遠い南天
ですぞ
その芽が
生じて
おります
よりによって
この五丈で
謀反など…

廷尉公叔
西羌国と示し合わせ
この斉王都を
襲うつもりです！

待たれい！
公叔は竜王様が
三顧の礼にて
招いた賢人じゃぞ
何を証拠に
そのようなことを…!?

その探りを
入れるために
彼を酒席に
招いたところ…

酔いが回るにつれ
ペラペラと
詳細を語って
くれました

あやつ
太平の世が
訪れると自分の
立身出世の場が
なくなると
考えております！

さ…酒の席での
戯れ言では
ないのか？

不謹慎では
あるが…

この書状を
ご覧ください

これは…!?

西羌との間で
交わされた
密書で
ございます

昨晩泥酔した公叔を屋敷に送り届ける際わたしの手の者に家捜しさせ見つけ出した物です

これが事実とすれば大事じゃ!!

通常の文書の中に巧妙に潜り込ませてありました

おおお…

南天大将軍姜子昌の影がちらついております

今のうちに対処しなくては危険でございます!

だれか…

だれかおらぬか!!

はっ
お呼びで
ございますか

公叔を
捕らえて参れ!!

公叔様をで
ございますか？

ん…

事は一刻を
争うのじゃ!!
もたもたするな!!

はっ
ただちに!!

ここは…

わしの部屋…

たしか
掌玉の屋敷で
酒に呼ばれて…

はっ!!

ない…っ!!

ない…っ!!

わしと西光との
やりとりの
手紙が
ことごとくない…っ!!

おのれ
女狐め…!

たばかり
おったなぁ～っ!!

おいっ
主人公叔(しゅじんこうおじ)は
どこだ!?

あわわわ

ご主人(しゅじん)は
ほんの数刻前(すうこくまえ)に
お出(で)かけに
なりました…

何(なん)だとお!?

おいっ
おまえは
三楽斎様(さんらくさいさま)に
お知(し)らせしろ!!

残(のこ)りは
付近(ふきん)を捜(さが)せ!

そうは
遠(とお)くへ
行っては
おらぬ!!

何？
逃げられただと!?

はっ
一足違いでした
申し訳ありません！

三楽斎様
公叔は竜王様より
軍を動かせる
割符を
預かっております

おお
そうじゃ

以前
西羌軍の増強を
公旦将軍への
援軍と称して
おりましたが

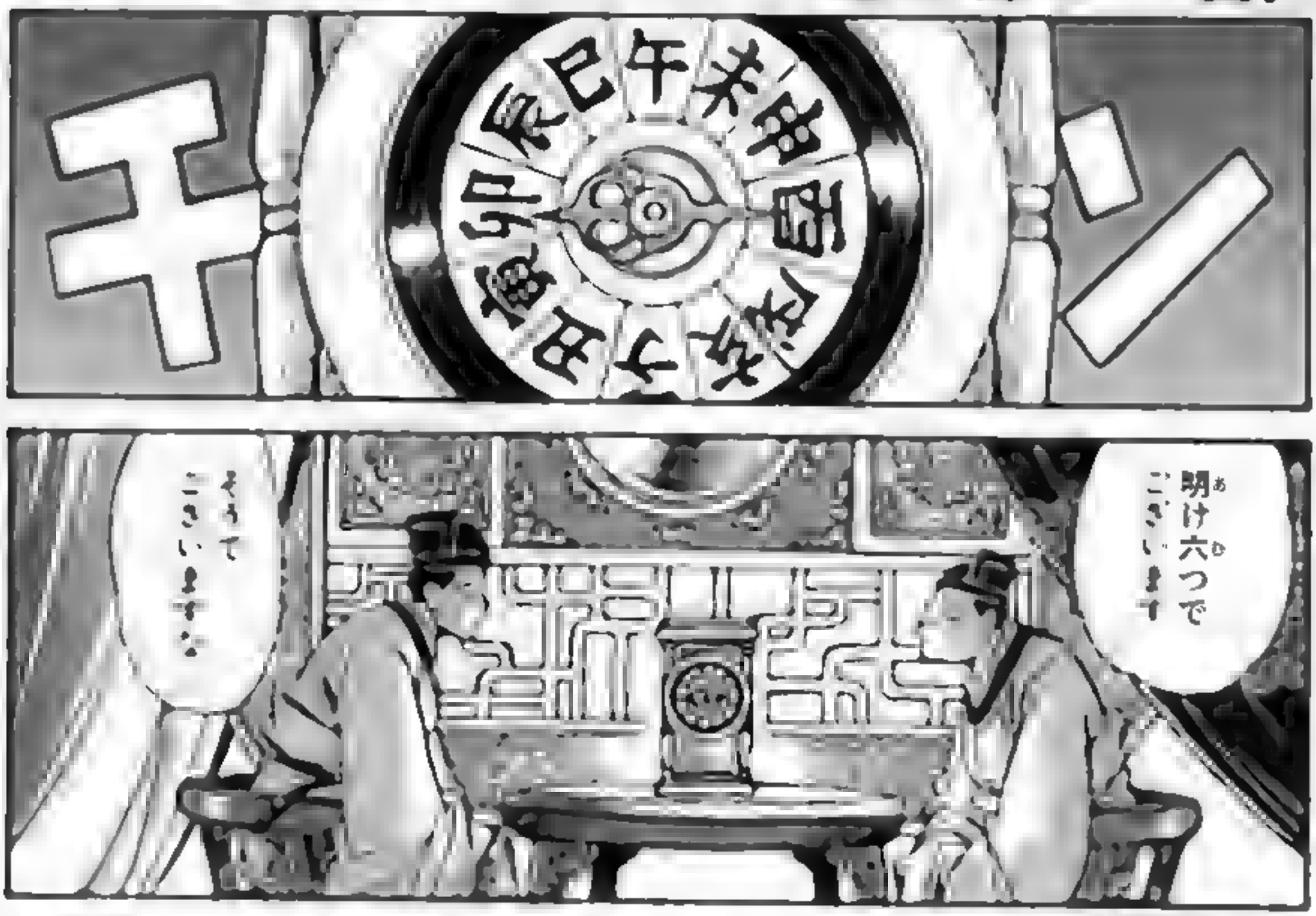
もし その割符を
使えば
国境も五丈国内も
やすやすと
西羌の大軍は
通り抜けできましょう

それでは
すでに
西羌軍は
五丈国内に
入っておると…!!

孟閣将軍を
お呼びするのじゃ!!

たがすでに西光軍は仏の如く各関所を心配の通り何の妨げる事なく進出していたのだった

巻末特別描き下ろし・〈竜王様の一日〉



ふあああ——

後宮の一室
養成殿にて
起床

う——

ねむ——

ポリポリ

やや低血圧気味の
竜王は
朝は苦手である

なかなか
よかったぜ
じゃあな！

眠刃に
水をかけられて
以来の慣習

朝服に
着替え…

竜王様～ん♡

うえ～～～
冷てえ～～～

よし!!

昨晩
どんな女と寝ようとも
朝食は必ず
正妻紫紋と
とる

白湯!

これは
二人の約束事
である

今朝は
ずいぶんと
食が進みますこと

コポ コポ…

そりゃもう
昨晩は
いろいろあってよー

ムッ

☆

あ
いやその…

よく寝て
よく食う
これ
健康の
秘訣ってな!

ホホホ
そーですわね

夫婦仲は
いたって
円満だ

だろ?
アハハハ

お帰りは?

☆

まっすぐ
帰ります!

早日の朝食後は
輿に乗って
政務を執り行なう
外朝・玉正殿に
出御する

今日もまた
予算の話か…

せ――っかく
いい天気
なのによ…

おーい

あっちだ

はは――っ！

イライラ

ドドッ

いたか!?

それが
どこにも…

丞相様…

門番の
衛兵によると
馬を駆って
出ていかれたそうです

何ーっ!?

〝後の事は
丞相に一任
する〟との
伝言を
残して

あ――
雨でも降っていりゃ
おとなしく
城中にいるものを…

さあ
それは
わかりませんよ…

師真の奴
さぞかし
怒ってるだろーな

ははは

パカ パカ

ん？

やっ!!

はっ!!

ていっ!!

あいたた!!

お…お嬢様(じょうさま)

もう少(すこ)し
お手柔(てやわ)らかに
お願(ねが)いしますよ

何(なん)だ
何(なん)だ
情(なさ)けないぞ!!
小伯(こはく)!

そんなんじゃ
棒術(ぼうじゅつ)の練習(れんしゅう)にも
なりゃしないだろ!

ほ――う…

型はきれいだがな隊だらけだ

!!

何だおまえ!

今何と言った!!!

隊だらけだと言ったんだ!

何だとー!!

不足見たところ練習相手に不足しているようだな

俺が相手してやってもいいぜ

こ……この……!

大きな口を叩きやがって……!
その口二度と開かぬようにしてやる!!

お…お…お嬢様~!!

退がってろ!! 小伯!

やあー

だー

とおーっ

うっそぉぉぉ!!

二刀も
防がせられ
ないなんて…

どうした
もう終わりか?

だ…だれか!!

わっ!!

な…
ななな…！
何(なに)お～っ!!!

じゃあな
城で
待ってるぜ！
ガサ！
ああ
ちょっと
お武家様！
このままに
されちゃ…！
お…
お嬢様
わかったよ…！
行って
やろうじゃない
城に…!!
師真よう
丞相自ら
お出迎えか
んなわけ
ねーだろ！

おまえというやつは
とーしてそう
朝議を
すっぽかす!!

あー
説教なら
後・後

それに不景気な
話なんだろ?
俺なんかが
いない方が
気がねなく
やれるじゃないか

このやろー
言い訳だけは
上手くなり
やがって~~~

ゼル

俺は
部下を
信じてるのさー

ゼル

読書し汗風呂で
汗を流した後
しばし
読書タイム

竜王様の
お読みになって
いるのは
「聖訓」と
いいまして

古来よりの
帝王の言葉をわたしが
編纂したものです

政治の
教科書というべき
ものでしょうか

やーめた

ぷぅ~

あっ
竜王様!

竜王様——っ!!

菓子と茶で
軽く昼を
すませた午後からは
各大臣による
上表を受ける

ドキ

パサ

こーいう時の
決断力は
さすがと
思わせられるんだよな——

即断即決と
いうか…
思い切りが
いいというか…

へえー　なら
そうか…　そっちの方が
いいか

人の話は
ちゃんと
素直に
聞くし…

そーいうのは
俺はよくわからんから
師真に聞いてくれ

自分が
興味を持たないことは
こっちに持ってくるし…

大臣の謁見の終わった後は地方官僚や領民からの訴状に目を通す

何だこりや俺の悪口じゃねーか

こっちはと…

なになに？豚が三頭盗まれた？何とかしてほしい？

そんなこと竜王様に申し上げても…困った者達だ

いや三楽斎

農民にとって豚三頭は三個軍団に匹敵する価値があるもんだ

役人を派遣して善処してやれ

はあいかにも

はは―っ！ただちに……!!

えーとこっちは…子供が女ばかりで困ってます？

パン

大事に育ててりゃ後宮入りも夢じゃないぞ

軽く武芸の修練！

お見事！

お見事でございます！

ようし
こいつで
五連ちゃんだ！

ヤーッ

!!

こらあっ！
待たんか!!

何だよ！
城に来いって
いったんだよ！

アイツが!!

よう！

あ！

来ると思ったぜ

こ…これは竜王様！

申し訳ありません!!
こやつがどうしても城に入れろと勝手に…

竜王…様？

え――っ!!

竜王様――っ!?

そーいや名前を聞いてなかったな

どこの何という名だ？

な…

あ…

さ…さ…先程のことはー…！

実家の両親と相談してお返事いたしますー!!

お嬢様ー

さよならーっ!!

後に商家から後宮入りし第二夫人となる弓腰姫こと楊尚香のエピソードである

引き続き
朝貢関係のある
属国の使者を
引見し

その貢物を
受け取り
しばし歓談

ここで一つ
貢物での
騒ぎを…

ある日
雷が

うまい
瓜が食いたいなー

と何気なく
いったところ

あれよあれよと
送り*瓜
倉がのり届けられる
あふれかえり

大半が
神楽の象の
エサとなったという
笑えない話がある

貢物でも
何でも
やっぱ
創意工夫しないとな

一日の公務も終わり
夕食の時間と
食事の内容を
厨房係に伝えると

ヂヂーッ

すぐ様
食事が運ばれる
ようになっている

お待たせ
いたしません！

毒味役の
宦官が
毒味をした後…

明日は
皆で鍋でも
つつくか

冷えて
きたもんなー

雷は
きくらげ以外は
何でも食べる

内府として
後宮の一切を
仕切る宦官の長

王福来

お食事中
申し訳
ありませぬ

彼の重要な仕事の一つとして後宮の女百人のリストを見せて

雷の選んだ女を寝室へ送り届ける役目がある

今晩はいらないようだ

……

！
こうして
私しの
一日が
よくも
終わったのであった

おまけ・〈南天王様の一日〉

いわ゛ーーーっ!!
殿 起きてください 朝議が 始まりますぞ
ちゅぴ～～
昼寝中 起こしたら 殺す!!!
殿! お勉強の 時間で ございますぞ
ぐぇ!!
殿… この書類に 判を…いただき… だめか こりゃ
ね――― 姜子昌様! わたし達の 俸給を二倍に するって 詔勅作っても バレないんじゃ ありません?
チョン チョン
いうな 殿には 殿のお考えが あろう
ぜーったい ありませんよ!

「帝たらんと欲するのみ!!

己の野心のためか
はたまた雷を怖れるあまりか
西光王・秦宮括は
つぶに五丈の首都
斉王都に大軍を差し向け
守るは
雷の宿将
大将軍孟閣!

この五丈に
首刎ねられる
将こそおれ

降伏する将など
誰一人も
おらぬわ!!

公叔……!!

あなたは破滅よ……!!

うおおっ!!

紅蓮の炎が都の空を焦がし

内府殿!!

さあ早く!!

命と愛する者の斉王都陥落……

それは天下統一を目の前にした悔やみ切れない悲劇となったのだ……!!

Dengeki Comics EX

銀河戦国群雄伝ライ㉒

1999年12月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館
電話03-5281-5238(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3238-8605(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1999

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！'99年5月号～9月号(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-1382-8 C0979